

2026年3月23日



一般社団法人 漁業ブ

高校・大学生による海の体験と未来づくりツアー
漁業ブ【さかなたび春の三陸ツアー2026】を開催しました！

2026年3月20-21日 【宮城県】

一般社団法人漁業ブは、2026年3月20～21日に、高校・大学生が海と漁業の現場を体験しながら、水産業の未来を考えることを目的として、さかなたび春の三陸ツアー2026を開催いたしました。このイベントは、次世代へ豊かで美しい海を引き継ぐために、海を介して人と人がつながる“日本財団「海と日本プロジェクト」”の一環です。



「さかなたび」とは？ (<https://sakanatabi.net/>)



漁業ブ さかなたび

海へ、漁へ、未来へ。



さかなたび
Sakanatabi

海をもっと知りたい。漁を体験してみたい。食の未来を考えたい。
そんなあなたに、「漁業ブ さかなたび」。

豊かな海の恵みがどのように生まれ、どんな人たちが支えているのか。
三陸と北陸の海をめぐる、漁師とともに海に出て、生産者と語り、
獲れたての魚を料理して食べる。
さらに、海的环境や漁業の課題を学び、未来の食について考える。

見て、触れて、味わい、感じる。

机上の知識では得られない“リアルな海”と出会い、
食の未来について考える機会に。「食べる」だけじゃない、
海の奥深さを知るチャンス。
未来の自分の可能性を広げるきっかけにもなるかも？
海をもっと知りたい人、魚に興味がある人、食の未来を考えたい人—
どんな動機でも OK です。

一緒に行こう、海の世界へ！



「さかなたび」は、海と生きる地域の現場に飛び込み、漁業体験や地域交流を通じて、アクションを考える若者たちを育成するツアープログラムです。単なる体験型イベントにとどまらず、学びと行動をつなぐアウトプットワーク（体験・提言発信活動）を通じて、未来志向のリーダーシップ育成を目指しています。

本ツアーでは、現地体験を単なる思い出に終わらせず、体験からの学びを言葉にするワーク、未来への提言を考えるアウトプット発表、事後のアクション・プロジェクト実施など、参加者自身が「社会に発信する力」を身につける機会を設計しています。単に参加するだけではなく、「未来をつくる主役」としての一步を踏み出す体験となります。

イベント実施概要

- ・ ツアー名：さかなたび春の三陸ツアー2026
- ・ 開催日程：2026年3月20～21日（2日間）
- ・ 開催場所：宮城県（南三陸町、気仙沼市）
- ・ 参加人数：首都圏および三陸地域の高校・大学生20名
- ・ 協力団体：白福本店、ヤマヨ水産、気仙沼市魚市場、南三陸 Season、浜わらす、戸倉 Seaboys 他

【1日目のツアーの内容と様子】



南三陸 SEASON での松藻養殖の取り組み

南三陸「SEASON」代表・阿部将己さんに、新規事業の取り組みの
マツモの陸上養殖の建設現場をご案内頂きました。



戸倉 Seaboys によるランチと交流

南三陸で活躍する漁師グループ戸倉 Seaboys の佐藤将人さんにお話を
伺いながら、日本一受賞「海のごちそうタコス」を堪能しました。



浜わらずで海洋教育体験とわかめしゃぶしゃぶ

子供達に海の楽しさを伝える NPO 法人浜わらずにて、取り組みを
伺いながら、旬のわかめしゃぶしゃぶを試食。



漁港でビーチコーミング体験

日門漁港に移動して実際に、海辺で貝殻や漂着物を収集する
自然体験活動（ビーチコーミング）を行いました。



気仙沼漁港散策

日本を代表する漁港町・気仙沼の漁港エリアを散策しながら
停泊するマグロやカツオ、イカ釣り漁船などを見学しました。



三陸・海の幸ディナーで交流

夜は Pier7 のミナトノトウヤにて、マグロやメカジキ、ワカメ・メカ
ブ、モウカザメのフライなど、気仙沼ならではの海の幸ディナーを楽し
みながら参加者で交流しました。

【2日目のツアーの内容と様子】



気仙沼魚市場の朝せり見学

早朝の気仙沼市魚市場で行われる「朝せり」を見学。IT化された魚市場流通のダイナミズムと漁業のテンポを体感します。



黒森シェフによるフカヒレの取り組み

震災後仙台に移り、宮城の地産食材を使った中華で日本を代表するシェフとなった黒森氏が、気仙沼に移転してフカヒレの新たな可能性を探究する取り組みについて伺いました。



ヤマヨ水産にて、牡蠣養殖の現在を体験

NHK「おかえり」モネのモデルにもなった大島のヤマヨ水産にて、牡蠣いかだの見学と、養殖の仕組みを現場で学びました。



漁師さんと海鮮バーベキューランチ

その後、ヤマヨ水産にて牡蠣や地元海産物をその場で味わうBBQランチ。漁師さんと気軽に語りながら、交流を深めました。



最終アウトプットセッション

会場を移して、水産業界をリードする白福本店の白井社長に、日本のマグロ遠洋漁業の現状と課題、水産業の未来への取り組みの話をお伺いして、活発な議論を行いました。



まとめとチームビルディング

最後の振り返りとまとめの議論を行い、2日間のさかなたびも終了。参加メンバーは今後も継続的に仲間として、さまざまな情報共有やイベントなどの繋がりを深めていきます。

参加した学生の声から（最終アンケートのコメントより）

- ・日本にこんなおいしい魚があるということ、地域を誇りに思いチャレンジし続ける大人がいるということ、漁師以外で私も水産に関われるということ、水産業の大切さ、そして課題を知ることができました。
- ・水産業および海業という概念の仕事について学ぶことができた。その概念の扱う範囲の広さを、知識のみならず実際に体験を通して学べたのはこれからも記憶に残るし、今後マグロ・牡蠣を見るたびに思い出と思う。
- ・今回の旅で出会った人やお話いただいた人がそれぞれの漁業に対しての気持ちや地域愛、新たなアプローチを持っていたことに感動しました。
- ・今回初めて三陸に来たが、各々の体験での取り組みが素晴らしいと思った。気仙沼は新しい人々を受け入れる体制も整えられていて、色々なつながりを大切に、地域全体で盛り上がっていく大切さを学んだ。
- ・気仙沼のエネルギー、パワー、活気に満ちた雰囲気、やはり人が集まること協力することでこれだけすすめるのか、と感じ驚いた。水産業、海が気仙沼の中心になっていのちや暮らしを支えているという様々なストーリーを目の当たりにしました。

一般社団法人漁業ブでは、今後も「さかなたび」を全国各地で展開していく予定です。ご期待ください。

< 団体概要 >



一般社団法人漁業ブ

公式サイト : <https://www.gyogyobu.jp>

公式 SNS : <https://www.instagram.com/gyogyobu/>

活動内容 : 一般社団法人漁業ブは、多様な異業種のメンバーが集まって、海洋教育・漁業体験・地域資源の魅力発信を軸に、次世代育成や持続可能な海づくりに貢献するプロジェクトを推進しています。未来のために地域と都市、海と人をつなぐ架け橋となる活動を展開中です。



日本財団「海と日本プロジェクト」

さまざまなかたちで日本人の暮らしを支え、時に心の安らぎやワクワク、ひらめきを与えてくれる海。そんな海で進行している環境の悪化などの現状を、子どもたちをはじめ全国の人が「自分ごと」としてとらえ、海を未来へ引き継ぐアクションの輪を広げていくため、オールジャパンで推進するプロジェクトです。

<https://uminohi.jp/>

< お問い合わせ先 >

一般社団法人 漁業ブ「さかなたび」事務局

担当：小西 圭介／松田 美穂

email : sakanatabi@gyogyobu.jp